

丹鶴叢書

萬代和歌集 三四

093.1

2006

佛教大学図書館



2005494496





新徳古今夏

藤原長経

九十一

あまのこころのちかやうなるをいふに  
いふにいとよき衣を

藤原仲実

あまのこころのちかやうなるをいふに  
いふにいとよき衣を

山辨

あまのこころのちかやうなるをいふに  
いふにいとよき衣を

源黄澄

あまのこころのちかやうなるをいふに  
いふにいとよき衣を

大偏都覚

新徳拾遺夏  
のちか

玉葉夏

西川法海

あまのこころのちかやうなるをいふに  
いふにいとよき衣を

周防内侍

あまのこころのちかやうなるをいふに  
いふにいとよき衣を

花山院侍

あまのこころのちかやうなるをいふに  
いふにいとよき衣を

未忘春花

あまのこころのちかやうなるをいふに  
いふにいとよき衣を



院後撰

建仁元年五月廿一日

建仁元年五月廿一日

前中納言定家

神皇正統記

神皇正統記

法皇良宗

神皇正統記

神皇正統記

一 條院 後 院

院千載

院千載

院千載

院千載

五

院千載

このころあつた……

法成も入道前授政家厚凡よかき養ふ

藤原輔平致せ

神……  
本

……  
本 祀 後

……  
本

……  
從二位家隆

……  
本

正治元年  
前中納言亮

……

新十 正治二年百

新十載夏

徳吉今夏

……  
小辨

……

高宮女侍

……  
本

……  
源道濟

……  
本

……

……

……  
法性も入道前藤原太政大臣

……

新後撰夏

……

洞院按政家百三十一 九条前内大臣

徳後撰夏

たのめりていふにたのめりていふにたのめりていふにたのめりていふに

たのめりていふにたのめりていふに

たのめりていふにたのめりていふにたのめりていふにたのめりていふに

藤原隆信

たのめりていふにたのめりていふにたのめりていふにたのめりていふに

藤原元正

たのめりていふにたのめりていふにたのめりていふにたのめりていふに

平一宗

たのめりていふにたのめりていふにたのめりていふにたのめりていふに

万

前大僧正信宗

たのめりていふにたのめりていふにたのめりていふにたのめりていふに

安性法師

たのめりていふにたのめりていふにたのめりていふにたのめりていふに

持宗使三浦の家より

藤原資隆

たのめりていふにたのめりていふにたのめりていふにたのめりていふに

俊法性も入道も

藤原資光

たのめりていふにたのめりていふにたのめりていふにたのめりていふに

待部ニシテ

時ノ事ノ由リニシテハ...

正ノ中ニ...

人ノ一ニ...

千五百五十五...

行ハ...

二條院序...

本ノ...

大宰權帥...

時ノ...

寛治二年一月二日一...

大納言三...

...

...

...

...

...

...

...

...

夜待郭トシと大江嘉言

おとくトシふりふりトシおのりおのりおのりおのりおのりおのり

中納言トシおのりおのりおのり

おのりおのり

統後拾遺集  
トシトシおのりおのりおのりおのりおのりおのり

延喜十三二年トシおのりおのりおのり

源正方

統十載夏在原元方  
トシトシおのりおのりおのりおのりおのりおのり

杜鵑月トシおのりおのりおのり

按察使トシおのり

統古今要

おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

永之トシおのりおのりおのり

左トシおのりおのりおのり

おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

おのりおのりおのりおのりおのり

從之位行能

おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

辨トシ内侍

おのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり

延喜十四年トシおのりおのりおのり

千鳥書

古今集古今集...

...

...

風雅夏

中納言行平家...

玉葉夏

...

永業六年...

前中納言...

...

郭芳門院...

大貳

...

祐子月親之家...

御内侍

...

...

お 様

...

...

侍ひておぼろの月の光を照らす  
よきとぞ侍るは

堀河右大臣

歌よみしは  
外家

寂勝四天王院陸子一輪のさ

後久家吉政大臣

徳古今夏

わが心は  
侍りては

周坊内侍

一十  
よきとぞ

万

玉葉夏

わが心は  
侍りては

正治法衣  
後鳥羽院法衣

徳古今夏

わが心は  
侍りては

和名式部

譜末

わが心は  
侍りては

菅原孝標女

古今  
よきとぞ

わが心は  
侍りては

杜若

わが心は  
侍りては

玉葉夏  
古今  
よきとぞ

十鳥書



徳千載夏  
あはれなる心にて

可憐なる心にて

和歌式部

徳拾遺夏

あはれなる心にて

山部

徳後拾遺雜上

あはれなる心にて

藤原元正

あはれなる心にて

後法皇御入道

刑部卿

徳古今雜上  
あはれなる心にて

後高祖御政左大臣の時

七二本

藤原成家

あはれなる心にて

後徳大寺左大臣

郭公入道

徳千載夏

あはれなる心にて

清子内親王

小倉婦

多日お

四月続後撰要 和

た

後

惠慶法師

神

同

堀河右大臣

并

太

し

藤原隆信

の

人の

源道深

時続後撰要

は

藤原

松

用

は



二品親王 雅成

徳古今雜上

御心を

式部門院傳

玉葉夏

御心を

法性入道

徳千載神部

御心を

社部

御心を

前中納言

徳後拾遺夏

御心を

題一

御心を

能因法師

新千載夏

御心を

法念右大臣

御心を

平兼時

御心を

藤原隆祐

御心を

新千載の御心を  
徳古今雜上  
徳千載神部  
徳後拾遺夏

徳拾遺夏

兼超法師

今秋とては秋の行はるるに思ふに秋の行はるるに思ふに

西行法師

王 夕 秋 夕 夕 夕

王 兼 夏

今秋とては秋の行はるるに思ふに秋の行はるるに思ふに

藤原三位 秋夕

新拾遺夏  
夕夕夕夕夕夕夕

今秋とては秋の行はるるに思ふに秋の行はるるに思ふに

花山院 秋夕

今秋とては秋の行はるるに思ふに秋の行はるるに思ふに

寛和二年五月内 秋夕 秋夕 秋夕 秋夕

大納言 延光

新拾遺夏  
月四日 庚申 夜

新拾遺夏

今秋とては秋の行はるるに思ふに秋の行はるるに思ふに

皇太后宮 秋夕 秋夕 秋夕 秋夕

今秋とては秋の行はるるに思ふに秋の行はるるに思ふに

源氏 秋夕 秋夕 秋夕 秋夕

今秋とては秋の行はるるに思ふに秋の行はるるに思ふに

秋夕 秋夕 秋夕 秋夕

今秋とては秋の行はるるに思ふに秋の行はるるに思ふに

寛和二年内 秋夕 秋夕 秋夕 秋夕

好 秋夕

今秋とては秋の行はるるに思ふに秋の行はるるに思ふに

宇治入道前賢の家歌

堀河右大臣

春のつばき花あけぬちのつばき花あけぬちのつばき花あけぬち

永久四季鳥羽殿歌

左を中右信通

いふあはれはなほいとふあはれはなほいとふあはれはなほいと

修理左大臣歌

くさねのつばき花あけぬちのつばき花あけぬちのつばき花あけぬち

様子内親王家歌

駒

昔のつばき花あけぬちのつばき花あけぬちのつばき花あけぬち

千五百番歌

続後拾遺夏

諸本

一本後

続後秋

接収末古歌

一本前

あはれはなほいとふあはれはなほいとふあはれはなほいと

末古納言歌

あはれはなほいとふあはれはなほいとふあはれはなほいと

後二位歌

続後撰夏

あはれはなほいとふあはれはなほいとふあはれはなほいと



新載夏

~~~~~の~~~~~あ~~~~~ん~~~~~け~~~~~る~~~~~あ~~~~~ら~~~~~く~~~~~ゆ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ

後 敦 康 太 宰 大 将 (後)

統十載夏

~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ

都 芳 心 傳 梅 吉 の

堀 河

~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ

歌 合 小 鞆 松 野 三 郎 三 郎 三 郎

入 道 前 按 政 左 大 将

統十載夏

一本

~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ

五

統十載の夏

右 大 将 の 時 百 三 十 一 雨 三 日 記 三

前 按 政 左 大 将

~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ

時 鳥 三

右 大 将 三 郎 三 郎

~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ

流 道 三

~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ

伴 勢

統古今夏

統十載夏

~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ~~~~~あ~~~~~ら~~~~~ぬ

延 喜 十 四 年 信 長 風 三

統古今十五年

元河内

新拾 延喜十四年 十二月廿一日

千鳥集書

新拾遺書

紀一 母之

月... 躬恒

徳吉 延喜二年中  
三三三三

...

早苗

母之

...

藤原仲文

...

永之口 四月 鳥羽 夏

...

藤原俊

...

右近中将

...

藤原

...

基氏

...

雨申早苗

風 室流  
中

徳後 早苗

新千 崇徳院  
中

丹鳥

海世...  
よる

徳千 宝治...  
ま...

丹波書

新千載賀

早苗

歌

堀河右大臣

徳千載夏

本

堀河院

前中納言

千

前中納言

徳千載夏

正

正治の

前中納言

徳吉今夏

前中納言

歌

祐子内親王

前中納言

百

前太政大臣

徳後撰夏

前中納言

前中納言

新後 夏...  
山階...

丹波書

新後撰夏

新後

Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, possibly a name or title.

Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically.

玉葉夏

夏清年中

小諸本

建保清和表

そのはる流のささめはあまのこころをいづる

建仁十年三月廿一日

玉葉夏

古本

抄のささめはあまのこころをいづる

後法性寺入道前皇の右大臣の時におさる

後徳大寺大寺

五月廿一日

五月廿一日

そのはる流のささめはあまのこころをいづる

抄のささめはあまのこころをいづる

仁和寺入道二品親王

徳大寺大寺

そのはる流のささめはあまのこころをいづる

河内守

五月廿一日

藤

後徳大寺大寺

そのはる流のささめはあまのこころをいづる

河内守

仁和寺入道二品親王

是性

一本前  
洞院按政品可ニ

後二位家隆

源長賴

五月廿二

二条院後政

源長賴

源長賴

源長賴

源長賴

源仲光

源長賴

万

徳吉五月百

徳古今雜上

源長賴

源長賴

源長賴

新拾遺夏

源長賴

源長賴

源長賴

源長賴

徳古今夏

入

源長賴

源長賴

源長賴

源長賴

洞院抄改家のふさ

藤原隆祐

入道の御書は御舟に御書は海にわたる御書は御舟に御書は海にわたる

まきいーろく

電色法抄

藤原の御書は御舟に御書は海にわたる御書は御舟に御書は海にわたる

兼曆二年申後宮入り五月あり

高橋為宗家保御書

御書の御書は御舟に御書は海にわたる御書は御舟に御書は海にわたる

同後番宮入り

権中納言通俊

統後拾遺 五月あり日六宮入り

五月雨を録

禊子内親王家美作

御書の御書は御舟に御書は海にわたる御書は御舟に御書は海にわたる

御書の御書は御舟に御書は海にわたる御書は御舟に御書は海にわたる

御書の御書は御舟に御書は海にわたる御書は御舟に御書は海にわたる

御書の御書は御舟に御書は海にわたる御書は御舟に御書は海にわたる

御書

前大納言忠良

御書の御書は御舟に御書は海にわたる御書は御舟に御書は海にわたる

丹波書

統後 建保二年  
五月

統後撰夏

統後撰夏

五月の御祭の御事奉り侍る  
おのゝ成部

皇女の御祭の御事奉り侍る  
因法師

皇女の御祭の御事奉り侍る  
藤原長能

皇女の御祭の御事奉り侍る  
後二位家隆

皇女の御祭の御事奉り侍る  
中納言家隆

統後撰雜上

新拾 光明寺  
と云ふ御事奉り侍る

新拾遺夏  
橋の御祭の御事奉り侍る

秋  
土師院序表

統古今夏

昔の御祭の御事奉り侍る  
前大納言家隆

皇女の御祭の御事奉り侍る  
信正永縁

皇女の御祭の御事奉り侍る  
中京師事新成

皇女の御祭の御事奉り侍る  
八條院六条

統古今  
中

~~~~~若くは~~~~~の自~~~~~

祐子内親王家歌合小廬橋と一本

少将

~~~~~の~~~~~の~~~~~

~~~~~中~~~~~ 後鳥羽院御歌

~~~~~の~~~~~の~~~~~

~~~~~の~~~~~の~~~~~

~~~~~ 周防内侍

~~~~~の~~~~~の~~~~~

无本 申納之行~~~~~

続後撰夏

~~~~~の~~~~~の~~~~~

~~~~~

夏今夏が中女

~~~~~の~~~~~の~~~~~

~~~~~

~~~~~の~~~~~の~~~~~

西は歩

~~~~~の~~~~~の~~~~~

前中納言臣方の家名~~~~~鶏河と

~~~~~

久々の月のついでに舟の風を〜  
 二条徳左大夫母  
 二條院讃岐  
 法眼慧覺  
 仁和入道二親王光性  
 志村牧達火とら

新統古今夏

百三郎の中に 後二位家隆  
 仁和入道二親王光性  
 三條入道光隆  
 西村法隆  
 藤原付光隆  
 藤原付光隆

千鳥夏書

新徳吉 水戸とよ  
とせはる

新徳吉 今夏

百三十五箇の中は 土居の院序如  
くもあはれいそんが氷室のつらさるゝさしめ  
夏は月遅しとわらふとよみ侍る

拙者使はし候

とやふもふさやあはれいそんが氷室のつらさるゝさしめ  
夏は月遅しとわらふとよみ侍る

月前逐涼とて 俊頼新也

新徳吉 今夏

志すつたふのさきふとて月の影はゆつとわらふとよみ侍る

歌一とて 大江嘉之

月一礼一本

中へはるるを并なすむとて月の影はゆつとわらふとよみ侍る

洞院中へはるるを并なすむとて月の影はゆつとわらふとよみ侍る

とて侍る

夏のももさきふとて月の影はゆつとわらふとよみ侍る

禊子内親も家のまゝとて夏は月と

丸衛門

とて侍る

丸京もさきふとて月の影はゆつとわらふとよみ侍る

大宮も太政大臣

とて侍る

石清水もあはれいそんが氷室のつらさるゝさしめ

月涼一本

通諸本

右大臣道長

あはれなるまはるる月影の輝くははるる月影  
前春深遠の家の家

左京大寺の跡

秋の月影あはるる月影あはるる月影

あはるる月影あはるる月影あはるる月影

続後撰夏影

ふと信の家

あはるる月影あはるる月影あはるる月影

友歌中々 好む

あはるる月影あはるる月影あはるる月影

あはるる月影あはるる月影あはるる月影

あはるる

孫原の家

あはるる月影あはるる月影あはるる月影

あはるる

孫原の家

あはるる月影あはるる月影あはるる月影

水鏡とまを語る 後鳥羽院法皇

あはるる月影あはるる月影あはるる月影

あはるる月影あはるる月影あはるる月影

和歌中々

あはるる月影あはるる月影あはるる月影

あはるる月影

中務令婦

純古まがの中

丹鳥書



統千載夏

花のうらみはなほさかえぬ

中流に石をたす

かきつばたのうらみはなほさかえぬ

かきつばたのうらみはなほさかえぬ

按察使に任

あまのつばたのうらみはなほさかえぬ

あまのつばたのうらみはなほさかえぬ

あまのつばたのうらみはなほさかえぬ

あまのつばたのうらみはなほさかえぬ

前中納言定家

五

あまのつばたのうらみはなほさかえぬ

あまのつばたのうらみはなほさかえぬ

藤原公仲の書

あまのつばたのうらみはなほさかえぬ

醍醐天皇の御書

小辨

あまのつばたのうらみはなほさかえぬ

あまのつばたのうらみはなほさかえぬ

大中書教の御書

あまのつばたのうらみはなほさかえぬ

新後拾遺雜春

夏海公の御書 從二位家隆

あまのつばたのうらみはなほさかえぬ

子鳥書

一ノ三

建保法書

新撰撰  
日吹の吹き風の相傳へて...

後徳大寺九次書

建保に建保法書後鳥羽院序書

言を能く書く人内庭風の

あつたかたの... 後鳥羽院法書...

前中納言頼資

藤原仲宣

後鳥羽院法書...

藤原仲宣

あはれなる松のけしきをまはるる風をよめる  
夏歌中

山をまはるる風をよめる  
廻風如海

良暹法師

あはれなる松のけしきをまはるる風をよめる

宇治入道太政大臣

大納言

あはれなる松のけしきをまはるる風をよめる

徳吉 夏風

徳吉 夏風

徳吉 夏風

徳吉 夏風

建保四年院法

前中納言

あはれなる松のけしきをまはるる風をよめる

法平宗田

あはれなる松のけしきをまはるる風をよめる

後鳥羽院法

後久家太政大臣

あはれなる松のけしきをまはるる風をよめる

仁汎

後鳥羽院法

新拾建保四年四月

新拾遺夏

風雅夏

あきかぜのこゝろをさぐりて  
あきかぜのこゝろをさぐりて

続千載夏

あきかぜのこゝろをさぐりて  
あきかぜのこゝろをさぐりて  
六月後のこゝろをさぐりて

土師院書

続古今雜上

あきかぜのこゝろをさぐりて  
あきかぜのこゝろをさぐりて  
あきかぜのこゝろをさぐりて

萬代和歌集卷第四

秋歌上

三秋の心を貫く

続後撰秋上

あきかぜのこゝろをさぐりて  
あきかぜのこゝろをさぐりて

おと続後

禰子内親王家武蔵

の一本

あきかぜのこゝろをさぐりて  
あきかぜのこゝろをさぐりて

久あきかぜのこゝろをさぐりて  
大炊連右大臣

続後撰秋上

あきかぜのこゝろをさぐりて  
あきかぜのこゝろをさぐりて

七月一日のあきかぜのこゝろをさぐりて

鎌倉右大臣

続後撰  
秋上  
の  
凡  
ル

続後撰  
秋上  
の  
凡  
ル

統後 建曆二年  
尾社

新統古今秋上  
このころ夜はくしく静き世の光もさびし秋の静を

千五百萬歌合のま 皇太后宮大夫俊成女

統後拾遺秋上  
好まじきものもたはらぬものもたはらぬし秋の風

後鳥羽院法皇御社奉合の秋風と

前中納言定家

統後撰秋上

新玉のまも半くさくさ後敷きよきものもたはらぬ

正治の法皇御社 後鳥羽院御製

しるはしのまもたはらぬものもたはらぬし秋の風

早秋の風もたはらぬ

東三條入道源朝臣太政大臣

なまもたはらぬものもたはらぬし秋の静を  
入道源朝臣太政大臣

統後撰秋上

しるはしのまもたはらぬものもたはらぬし秋の風

早秋知秋のまもたはらぬものもたはらぬし秋の風

統後拾遺秋上 題不知

しるはしのまもたはらぬものもたはらぬし秋の風

まもたはらぬものもたはらぬものもたはらぬし秋の風

しるはしのまもたはらぬものもたはらぬし秋の風

しるはしのまもたはらぬものもたはらぬし秋の風

寛喜女侍入角屋の風

正三位知家

統後 寛喜元年  
海辺秋風

統後 初秋のころ  
とてはつた

統後撰秋上

この京のついでにやまの清くぬれぬるの神を  
侍後 侍成

新統古今秋上

あまのついでにやまの清くぬれぬるの神を  
侍後 侍成

仁和寺入道二岳親王 家五十三歳

中江

藤原隆信 家五

統後撰秋上

この統後  
入道二岳親王 道助 家五十四歳

藤原隆信 家五

藤原隆信 家五

玉葉秋上

この玉葉  
洞院松政家の玉葉とてはつた

洞院松政家の玉葉とてはつた

藤原隆信 家五

洞院松政家の玉葉とてはつた

少将内侍

藤原隆信 家五

洞院松政家の玉葉とてはつた

藤原隆信 家五

洞院松政家の玉葉とてはつた

仁和寺入道二岳親王

仁和寺入道二岳親王

洞院松政家の玉葉とてはつた

法眼兼光

千代宮御書



あまのらんこのまらさきふる風家のぬい

恒徳公

新徳古今秋上

まつりあはれおちあはれおちあはれおちあはれ  
かへおちあはれおちあはれおちあはれ

中納言保光

同秋上

まつりあはれおちあはれおちあはれおちあはれ

七夕と

中納言重頼

同秋上

まつりあはれおちあはれおちあはれおちあはれ

太宰大貳(孝)

新千載秋上

まつりあはれおちあはれおちあはれおちあはれ

新千載  
大納言徑信

俊頼朝王

新徳古今秋上

まつりあはれおちあはれおちあはれおちあはれ

七月七日 <sup>夜三</sup> 東三條院

上東院

徳古今秋上

まつりあはれおちあはれおちあはれおちあはれ

東三條院

同秋上

まつりあはれおちあはれおちあはれおちあはれ

馬内侍

玉葉秋上

まつりあはれおちあはれおちあはれおちあはれ

法華寺入道源朝政家屋風の

玉  
五  
七  
月  
七  
日  
よ  
し  
の  
侍

藤原補平親王

桐様の御もたれし御心持のまじりて  
七夕と  
法橋歌詠

天降風雲の御心持のまじりて  
俊恵法師

桐様の御心持のまじりて  
仁和寺入道之御親王  
家五十

源行光

新徳古今秋上  
桐様の御心持のまじりて  
御心持のまじりて

徳後  
山於志人

宮方親王

天の御心持のまじりて  
十三年甲子と  
如志求部

新千載秋上  
と  
六雪織女後志のまじりて

千 里

徳後撰秋上

桐様の御心持のまじりて  
徳後  
同上

丹 雀

桐様の御心持のまじりて  
八日

丹雀書

統後 七夕のころと

統後撰秋上

七夕早のころのしらけ天のしほりもほろもろ

百のころの申り 入道お探取れたる

同秋上

七夕のころのしらけ天のしほりもほろもろ

七夕後朝のころ 後朝お探取れたる

統古今秋上

七夕のころのしらけ天のしほりもほろもろ

八日朝お探取れたる

入道お探取れたる

選子内親王

統千載秋上

七夕のころのしらけ天のしほりもほろもろ

万

統後 七月七日後余  
小糸上歩の院おま  
あつてあつてあ  
とあつてあつてあ

新統古今秋上

七夕のころのしらけ天のしほりもほろもろ

七夕のころのしらけ天のしほりもほろもろ

小或内侍

統後撰秋上

七夕のころのしらけ天のしほりもほろもろ

七月九日お探取れたる

彰千 延喜十六年  
七月七日の子院後  
とのあやう

新千載秋上  
あつたつた 傳へたおとよき星と<sup>の</sup>新十  
あつたつた 伝へたおとよき星と

秋ふれ中なり 好む

あつたつたのどりのつとみとみうけそ 秋ふれ中なりと 祝ふ

後鳥羽院侍所の秋撰の名のうら

後久家太政大臣

新統古今秋上  
以風下葉のつとみとみうけそ 秋ふれ中なりと 祝ふ

まいつらん 挿ふ使と任

玉葉秋上  
あつたつたのどりのつとみとみうけそ 秋ふれ中なりと 祝ふ

入道前接政家秋抄

あつたつた太政大臣

統古今秋上  
いづれも 秋ふれ中なりと 祝ふ

行路秋むとらふと

修理大臣秋抄

新統古今秋上  
あつたつたのどりのつとみとみうけそ 秋ふれ中なりと 祝ふ

寛喜女侍入内厚風

あつたつた太政大臣

法人のらりし 梓うらむまの 秋入のあつたつた 祝ふ

秋ふれ中なり 式子内親王

統古今秋上  
あつたつたのどりのつとみとみうけそ 秋ふれ中なりと 祝ふ

後法住入道前夏白右大臣の時のふと

舟鳥集書

統古今秋上  
正法住入道前夏白右大臣の時のふと

玉葉秋上  
あつたつたのどりのつとみとみうけそ 秋ふれ中なりと 祝ふ

るをせと

後徳大寺大内

あはれをいねおみ九折りかみとまねの揺衣が

寐とよめる

前中納言色房

る枕の志る一とみゆらとむと自人とめくはら

四條太皇太后宮下登

さうふとて小枝の原よとよとくはとく花をい衣をぬ人

空を隠路といふと

太宰権伸經伝

白きくくは枝は枝とよとくはとくはとくはとくは

秋ふら

高木は原

あはれをいねおみ九折りかみとまねの揺衣が

年中寝とよ

洞院按察大内

秋のゆらめは枝の枝とよとくはとくはとくは

正さふとて小枝の原よとよとくはとくは

藤原為氏親

あはれをいねおみ九折りかみとまねの揺衣が

雁鳥司院按察

とくはとくはとくはとくはとくはとくはとくは

秋一と

大内三位

あはれをいねおみ九折りかみとまねの揺衣が

徳吉 室治一とよと

同

丹波叢書

新徳古今秋上

さゝのみ

秋の萩のよきものぞきさきも出さるる

権大納言忠信

徳後撰秋上

あつたのよきものぞきさきも出さるる

花に院侍忠光

秋のよきものぞきさきも出さるる

まゆみの中よき萩と

入道二岳親と 道明

あつたのよきものぞきさきも出さるる

と見物せよと

後徳大寺大寺

秋のよきものぞきさきも出さるる

秋のよきものぞき

衣とあつた

徳後撰秋上

あつたのよきものぞきさきも出さるる

六帖歌あつた

このよきものぞきさきも出さるる

歌と

あつた

あつたのよきものぞきさきも出さるる

後は大寺大寺

徳千載秋上

あつたのよきものぞきさきも出さるる

十鳥書

中納言家持

新徳古今秋上

好風ふきわたるはるの空のそよ風のちかきも

徳合おたけ

花ふきわたるはるの空のそよ風のちかきも

後

玉葉秋上

あまのこゝろのそよ風のちかきも

貫之

徳古今秋下

あまのこゝろのそよ風のちかきも

伴誓

風雅秋上

あまのこゝろのそよ風のちかきも

万

徳千藤とよみ

徳千載秋上

あまのこゝろのそよ風のちかきも

小辨

あまのこゝろのそよ風のちかきも

仁和寺おん

玉葉恋四

あまのこゝろのそよ風のちかきも

あまのこゝろのそよ風のちかきも

あまのこゝろ

同秋上

あまのこゝろのそよ風のちかきも

鳥羽殿おん

都芳門院安藤

千鳥集書

鏡後拾遺秋上

...

八鏡後秋

...

...

陽明院

鏡後撰秋上

鏡後

...

草花と

樟中納長方

...

...

涼季彦

...

水邊...

西...

一本

...

...

基俊

...

新拾遺秋上

...

平希世...

...

康保三年八月十五日...

十一本

皇太后宮権大夫博雅

十鳥景書

徳後拾遺歌上

しるしをたもてふはなはたのふかしのさかき

題一

太宰大貳(みま)

新拾遺歌上

おのゝちのさかきをたもてふはなはたのふかしのさかき

三十一本

寛和元年(みま)内表(みま)合(みま)と

藤原惟成

新千載歌上

しるしをたもてふはなはたのふかしのさかき

長能

かきつるやまもまらぬ杖のふかしのさかき

題一

二條院之河内侍

新千載歌上

かきつるやまもまらぬ杖のふかしのさかき

万

権中納言紀輔

かきつるやまもまらぬ杖のふかしのさかき

源信朝臣

新千載歌上

かきつるやまもまらぬ杖のふかしのさかき

九條右大臣

徳千載歌上

かきつるやまもまらぬ杖のふかしのさかき

三本

秋のふかきに

按察使(みま)

かきつるやまもまらぬ杖のふかしのさかき

藤原隆祐

手紙のうらみはあつたし物なきはたのうらみはあつた

よこし百の歌合の事 皇太后の大夫俊成女

風はあつたのうらみはあつたし物なきはたのうらみはあつた一本

太神宮のうらみはあつたし物なきはたのうらみはあつた

後鳥羽院侍書

鏡子のうらみはあつたし物なきはたのうらみはあつた

未だ情なきうらみはあつたし物なきはたのうらみはあつた

皇太后の大夫俊成

葉あつたのうらみはあつたし物なきはたのうらみはあつた

よきうらみはあつたし物なきはたのうらみはあつた

徒後拾遺秋上

徒後秋

あつたのうらみはあつたし物なきはたのうらみはあつた

平城の皇侍書

あつたのうらみはあつたし物なきはたのうらみはあつた

あつたのうらみはあつたし物なきはたのうらみはあつた

あつたのうらみはあつたし物なきはたのうらみはあつた

あつたのうらみはあつたし物なきはたのうらみはあつた

松中納言長方

あつたのうらみはあつたし物なきはたのうらみはあつた

正治のうらみはあつたし物なきはたのうらみはあつた

玉葉恋四

同秋止

統十載秋上

あはれなる秋の風を思ふに  
心三信經

あはれなる秋の風を思ふに  
花園大寺家少

あはれなる秋の風を思ふに  
秋あはれ ちん

あはれなる秋の風を思ふに  
新内侍

新後撰秋上

あはれなる秋の風を思ふに  
あはれなる秋の風を思ふに

統十載秋上

千五百番の令の歌 二條院後

あはれなる秋の風を思ふに  
あはれなる秋の風を思ふに

あはれなる秋の風を思ふに  
あはれなる秋の風を思ふに

あはれなる秋の風を思ふに  
あはれなる秋の風を思ふに

あはれなる秋の風を思ふに  
あはれなる秋の風を思ふに

統拾 鳥羽院時

修理大夫朝臣

新十載雜上

新十 光明峯寺入  
道多抄改家の十  
三のり

秋のまゝまゝのまゝに秋のまゝに  
入道多抄改家より晴の秋と申すと  
従二位家隆

新十載雜上

このまゝのまゝのまゝに秋のまゝに  
入道二岳親と道助もまゝに秋のまゝと  
泰誠雅臣

泰誠雅臣

小末

秋のまゝのまゝのまゝに秋のまゝに  
秋のまゝのまゝのまゝに秋のまゝに  
西の法法

新十載今雜上

秋のまゝのまゝのまゝに秋のまゝに  
延長二年中宮寺なる秋のまゝの歌

法法

五人

秋のまゝのまゝのまゝに秋のまゝに  
秋のまゝのまゝのまゝに秋のまゝに  
延喜寺歌

中

三

秋のまゝのまゝのまゝに秋のまゝに  
秋のまゝのまゝのまゝに秋のまゝに

お

新拾遺秋下

秋のまゝのまゝのまゝに秋のまゝに  
秋のまゝのまゝのまゝに秋のまゝに  
秋のまゝのまゝのまゝに秋のまゝに

秋のまゝのまゝのまゝに秋のまゝに

新拾遺  
空百

新統古今秋下

身もむく世風は世に... 信生法師

純後拾遺歌上

秋の夕暮に... 信生法師

朝の光を... 好名

鳥の鳴き声... 強名右大臣

秋の夕暮の中... 入道左衛門右大臣

鳥の鳴き声... 強名右大臣

秋の夕暮の中... 入道左衛門右大臣

秋の夕暮の中... 入道左衛門右大臣

純正載歌上

秋の夕暮の中... 入道左衛門右大臣

秋の夕暮の中... 入道左衛門右大臣

秋の夕暮の中... 入道左衛門右大臣

新拾遺歌上

秋の夕暮の中... 入道左衛門右大臣

新統古今秋上

秋の夕暮の中... 入道左衛門右大臣

続拾名所百首

鏡後建保四年

鏡拾遺秋上

建保内主百...  
前中納言家

鏡後撰秋上

後撰秋上  
...  
從二位家隆

同秋の事

同秋上

同秋上  
...  
中納言家持

...  
中納言家持

鏡後撰秋上

後撰秋中忠令

後撰秋中忠令

...  
源師光

源師光

鏡後撰秋上

鏡後撰秋上  
...  
信吉社

信吉社  
...  
藤原仲光朝臣

鏡後撰秋上

鏡後撰秋上  
...  
藤原仲光朝臣

藤原仲光朝臣

...  
藤原仲光朝臣

藤原仲光朝臣

鏡後撰秋上  
...  
藤原仲光朝臣

藤原成方歌也

新見のあはれなるはたけのつとむるはなはたけのつとむる

後鳥羽院時村撰の合ふ

中納言定家

はなはたけのあはれなるはたけのつとむるはなはたけのつとむる

後二位家隆

あはれなるはたけのつとむるはなはたけのつとむる

十三年の春はなはたけのつとむる

和名中納言

あはれなるはたけのつとむるはなはたけのつとむる

正三郎の中ふ 重之

橘橋のゆき日よる村のあはれなるはなはたけのつとむる

藤原中一 曾根好忠一本

あはれなるはたけのつとむるはなはたけのつとむる

きりぎりす 中務少輔重平

あはれなるはたけのつとむるはなはたけのつとむる

千五百のあはれなるはなはたけのつとむる

あはれなるはたけのつとむるはなはたけのつとむる

藤原中一

五十のあはれなるはなはたけのつとむる  
よき世傳のつとむる  
凡

新撰秋上

風雅秋上

千鳥書

統古今雜上

たつこのうらみ身お付さるるもな言つては杜風を吹  
お大納言忠良

さるかのうらみもあつた風づゝおはるるも言さるる  
建保の表杜十も言ふ歌合

大納言通具

さるりとの杜の杜風は言さるるおはるる

大藏御方家

さるるもあつた風づゝおはるるも言さるる杜風を吹

お杜風を吹つては三位侍也

おはるるもあつた風づゝおはるるも言さるる

玉葉秋上

玉葉

法性入道おはるるも言さるる

源雅光

かよひのおまの系系の一十の杜風は言さるる

建保の表百番おはるるの歌合

信正の言

おはるるもあつた風づゝおはるるも言さるる

前寮おはるるも言さるる秋を言さるる

藤原為氏おはるる

おはるるもあつた風づゝおはるるも言さるる

おはるるも言さるる  
藤原為氏おはるる

継譜本

舟鳥書

此の御書は、  
御書

御書

千五百番の御書  
嘉陽門院御書

嘉陽門院御書

御書  
御書  
御書  
御書

御書

御書

梅壺女侍

御書

後系極指政大臣

御書

前指政大臣

御書

從二位家隆

御書

藤原元真

徳吉建仁元年五十

徳吉会秋上

丹鶴叢書

新徳古 宝治五年

新拾遺雜上

あしはらおとすのさむらひのたけのき

藤原隆信のたけ

新徳古今秋上

あしはらおとすのさむらひのたけのき

入道藤原家のたけ

藤原隆信のたけ

徳古今秋上

二一本

あしはらおとすのさむらひのたけのき

藤原光俊のたけ

あしはらおとすのさむらひのたけのき

藤原光俊のたけ

徳拾遺雜秋上

あしはらおとすのさむらひのたけのき

五

六帖題の中ふた

信実朝臣

徳古今秋上

あしはらおとすのさむらひのたけのき

藤原隆信のたけ

徳後撰秋上

あしはらおとすのさむらひのたけのき

藤原隆信のたけ

徳古今秋上

あしはらおとすのさむらひのたけのき

藤原隆信のたけ

あしはらおとすのさむらひのたけのき

徳古今秋上

新徳古 相思夕上  
松基立 蚕思 蟬声  
満耳秋 とうとうと

新徳古全秋上

九三衛律自宅副

晴の秋思のいかにゆるゆると秋の秋の秋の夕暮  
辭因依

未  
入道は松政家村中

尚依家中納言

尚依家中納言

後法性寺入道末子右大臣の御孫  
和名式部

後法性寺入道末子右大臣の御孫

万

後徳大寺左大臣

仁和寺入道二宮親王  
仁和寺入道二宮親王

徳後拾遺秋上

月と花と  
大江嘉光

後鳥羽院御製  
後鳥羽院御製

後鳥羽院御製

徳後 忠保二傳秋  
十をかりたる  
てふ

徳後撰秋中

秋十三年の秋中

秋十三年の秋中

秋十三年の秋中

秋十三年の秋中

前々改次

徳後撰秋中

秋十三年の秋中

前々改次

徳吉 山月

徳吉 山月

秋十三年の秋中

秋十三年の秋中

秋十三年の秋中

万

洞院接政家

後二位家陸

徳吉今秋上

秋十三年の秋中

秋十三年の秋中

徳後撰秋中

秋十三年の秋中

秋十三年の秋中

秋十三年の秋中

徳吉今秋上

秋十三年の秋中

秋十三年の秋中

同秋上

秋十三年の秋中

徳吉

徳吉

徳吉

同秋上

月多遠情といふと

諸本  
宗一新徳寺  
ほろの家おと

新徳寺全秋上

あふもほろの月多遠情といふと  
ほろの家おと

藤原親承

あふもほろの月多遠情といふと

九條右大臣家おと

大補

あふもほろの月多遠情といふと

建保四年侍

万

後鳥羽院侍

徳後撰秋中

あふもほろの月多遠情といふと  
あふもほろの月多遠情といふと  
建保四年侍

あふもほろの月多遠情といふと

建保四年侍

新拾遺秋下

あふもほろの月多遠情といふと  
あふもほろの月多遠情といふと  
建保四年侍

あふもほろの月多遠情といふと

建保四年侍

宗徳院侍

徳吉多秋上

是の月... 月のみ... の...

秋... 中納言

中納言

... 秋の... 月...

大江嘉三

玉葉秋下

秋の... 月...

後鳥羽院は時撰... 月...

嘉陽門院

嘉陽門院

徳後撰秋中

月... 秋...

海邊の月... 源孝彦

... 月... 秋...

鴨長明

玉... 月...

海路月と

中原仲光

思... 月...

月... 秋...

二条院

新拾遺秋上

月... 秋...

殷富門院大輔

徳後拾遺雜中

... 月...

十... 月と

三... 月...

子鳥書

玉葉秋下

皇太后宮女史後如

世に申し何さむむ杜あふ月とてさきとてさきとて  
花の院は時月放りせ給ひける  
いづれ一本

戒書法師

統後撰秋中

りままたるの月とてさきとてさきとてさきとてさきとて  
西川法師

新撰拾遺秋下

ままたるの月とてさきとてさきとてさきとてさきとて  
西園寺の道宗大政大臣

天の宮とてさきとてさきとてさきとてさきとてさきとて

承暦二年申為さるる月と

万

統吉 八月十五夜月  
宴せしむるの月

おもしろい月とてさきとてさきとてさきとてさきとて

前中納言匡房

八月十五夜月とてさきとてさきとてさきとて

天馬侍親

統古今雜上

月毎の月とてさきとてさきとてさきとてさきとて

中納言親忠

おもしろい月とてさきとてさきとてさきとてさきとて

厚風

法華寺入道宗持右大臣

統後撰秋中

おもしろい月とてさきとてさきとてさきとてさきとて

統後  
一本

八月十五夜月とてさきとてさきとてさきとて

統後 宴家の厚風

お大納言頼經

秋のふたごのさむかしの月諸本のつらみ

後鳥羽院時八月十五夜秋月とて

按察使隆胤

あつたふしの月諸本のつらみ

あつたふしの月とて 清輔頼光

あつたふしの月諸本のつらみ

八月十五夜秋月とて

藤原仲実頼光

あつたふしの月諸本のつらみ

統後 二条天皇白太  
及大納言八月十五夜  
哥合小

月とて秋月とて

周防内侍

あつたふしの月諸本のつらみ

二條太皇太后宮掾

あつたふしの月諸本のつらみ

久あふしの月とて 大納言隆季

あつたふしの月諸本のつらみ

あつたふしの月とて

統後 秋上歌

統後 換秋中

かけ 統後

丹  
雀  
書

四  
ノ  
六  
八  
止

万

